

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 4月 1日

事業所名 こども発達サポートせいの

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		法令遵守したスペースを確保しています。
	2	職員の配置数は適切である	89%	11%		契約・モニタリング時に説明をしています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%		パーティションを使い専用の机・椅子・足置きを使用しカードによる情報伝達で視覚支援を行っています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	89%	11%		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	78%	33%		月1回の定例会議にて業務改善に努めています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		ホームページにて公開しています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	78%	22%		行政書士等第三者による外部評価を業務改善につなげています。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%		内部研修は、月1回行い、外部研修にも参加できるように努めています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%		半年に1回のモニタリング(対面は、コロナ禍でおこなっていません。)を電話等で行い計画を作成しています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	78%	22%		今後地域支援ができるように検討します。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		児童発達支援管理責任者・担当児童指導員を中心に会議にて話し合い行っています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	100%	0%		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	67%	33%		スケジュール表にて確認・スタッフノートで注意事項を共有できるようにしています。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	67%	33%		
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		日誌等記録を取り、支援の改善に努めています。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		半年に1回のモニタリング、連絡帳によるやりとり等で見直しの必要性の判断をしています。
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		担当者会議には、児童発達管理責任者が出席しています。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%		関係機関と連携して支援を行っています。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%		保健所・病院・障がい福祉・保育園等と連携してサマリー等いただき、支援を行っています。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%		
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%		移行支援として支援内容をいただき、情報共有しています。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%		移行支援として支援内容を提供し情報共有しています。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	89%	11%		連携し助言・研修が受けれるように努めています。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	78%	22%		地域との交流機会を検討します。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0%	100%		
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		保護者の方からの話し・課題に対し共通理解できる努めています。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	22%	78%		家族支援プログラムの支援を検討します。
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		契約・モニタリング時に説明をしています。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		相談に対して迅速にお答えし支援につなげています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		コロナ禍で進んでいない保護者会が開催できるように検討します。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		相談申し入れに対し迅速かつ適切な対応を心がけています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		活動内容は、毎回お手紙を持ち帰り知らせています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		契約時に同意書をいただき、個人情報取り扱いに注意しています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	89%	11%	手話・マカトン使用	情報伝達できるように配慮しています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		地域との交流機を検討します。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%		マニュアルは、玄関横にファイリングを置いています。 災害学習と避難訓練を年に1回行い記録を残しています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%		契約・モニタリング時に確認しお薬・指示書に基づく対応・記録を行い保護者に報告しています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アレルギーの指示書や服薬の預かりをしています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		事例は、会議にて共有しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		年1回研修し虐待防止に努めています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%		他児に影響がでる場合身体拘束を行うことを説明し了解を得て記載、報告を行うようにしています。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年4月1日

事業所名 こども発達サポートセーの

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		法令遵守に基づき適切なスペース確保に努めています。
	2 職員の配置数は適切である	86%	14%		ニーズに対応できるように配置し契約時に説明をしています。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%		必要な場所に手すりを設置しています。玄関の段差は、マットを敷いて出入りは、注意しています。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	71%	29%		会議にて業務改善を行っています。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		年1回アンケート調査を行い意向を把握し業務改善につなげています。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		自己評価の結果は、毎年4月1日にホームページにて公開しています。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	71%	29%		行政書士等による第三者が外部評価を行い業務改善につなげています。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%		月1回内部研修を行っています。外部研修にも参加できるよう配慮しています。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		半年に1回モニタリングを行い(コロナ禍で対面は、行わず電話等で対応)ニーズや課題を把握計画を作成しています。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		標準化されたツールを使用しています。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		児童発達支援管理者を中心に立案し会議で話し合いを行っています。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		利用児童や保護者の要望を取り入れ、会議で最終決定して固定化しないようにしています。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		休日・長期休暇は、楽しんで体験できる内容を重視しています。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		集団活動は、スタッフが順番に立案週交替りで提供しています。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	71%	29%		スケジュール表・連絡ノートを活用して確認できるようにしています。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	43%	57%		
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		日誌等にて記録しています。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		6カ月に1回見直しを行っています。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	86%	14%		基本活動に個人で選択した支援を行っています

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達管理責任者が参画しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	保護者を通じたり、直接学校とのやりとりで情報の共有をしています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	サマリーをいただいたり、連絡体制を整えています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	情報共有のため引継シートを交換しています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	43%	57%	専門機関との連携、今後研修にも参加していきたいと思います。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	交流を検討します。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	状況や課題は、連絡帳やお電話にて共通理解に努めています。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	71%	29%	今後、ペアレント・トレーニング等検討します。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約・モニタリング時に説明を行っています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	連絡帳・お電話・送迎時にお受けした相談は、お答えしたり、支援に繋げています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	コロナ禍ですすんでいませんでしたが今後検討します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	迅速かつ適切な対応を心がけています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	活動内容は毎回お手紙を持ち帰り知らせています。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	契約時に同意書をいただき、個人情報の取り扱いに注意しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	手話・マカトン・筆記を活用し情報伝達に配慮しています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	地域との交流を検討します。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		マニュアルは、玄関横にファイリングを置いています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		災害学習と避難訓練は、年1回行い記録を残しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		年1回研修を行い、虐待防止に努めています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		契約時に説明を行い了解を得て対応・報告を行っています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アレルギーの指示書や注意点を把握し、服薬を預かりを行っています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		共有して未然に防げるようにしています。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年 4月 1日

事業所名

保護者等数(児童数)32回収数 29割合 91%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	86%	14%	0%	0%		法令遵守したスペースの確保をしています。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	93%	0%	0%	7%		契約モニタリング時に説明をしています。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	66%	0%	0%	34%		必要な箇所に手すりを設置しています。 玄関口の段差は、マットを敷き、注意して出入りしています。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	93%	7%	0%	0%	ニーズを伝えるとすぐに対応し支援に盛り込んでもらえました。	送迎時や電話などでニーズの把握を行い、計画の作成をしています。
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	97%	3%	0%	0%	長期休暇中のいつもと違うプログラムも楽しんでいます。	主担当が立案日々の様子を考慮して月1回の会議にて全職員で改善し立てています。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	17%	38%	10%	34%	特に必要性を感じていない。	今後交流を検討します。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	93%	0%	3%	3%	コロナ禍で評価できない。	コロナが落ち着き面談再開にて説明予定です。
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	97%	3%	0%	0%	送迎時や電話で話したり聞けています。 連絡帳でもやりとりができます。	連絡帳やお手紙、お電話等で共通理解に努めます。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	83%	17%	0%	0%	電話で相談すると親身に助言していただきました。 信頼して助言を求めています。	コロナが落ち着き面談再開予定です。 情報の収集を行い、研修に参加するなどお答えできるように努めます。
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	10%	0%	62%	28%	コロナ禍でしかたないと思う。	今後保護者同士の連携の支援を検討します。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	79%	3%	10%	7%	苦情を出したことがないのでわからない。	ご意見は真摯に受け止め対応しています。
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	97%	3%	0%	0%		いただいた情報をもとに意思伝達できるように努めます。
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	83%	10%	0%	7%		お手紙や連絡帳にておしらせています。 自己評価は、ホームページで公表しています。
非常 時等 の 対応	14	個人情報に十分注意しているか	83%	0%	0%	17%		契約時に同意書いただき、会議での使用は、確認を取るようになっています。
	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	83%	7%	0%	10%		契約時にご説明しています。 閲覧できるようにファイリングし入り口に置いています。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	76%	0%	7%	17%	火災の時どうするか学んできたことを覚えて話してくれました。	年1回学習と避難訓練を行いお手紙を持って帰ってお知らせしています。

満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	93%	3%	3%	0%	帰るといつも嬉しそうに何をしたか話してくれます。	楽しみにしてもらえよう努めます。
	18	事業所の支援に満足しているか	97%	3%	0%	0%	満足しています。要望に応じてもらっています。	常にニーズを把握し一人一人に合った支援を提供できるように努めます。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。